

『全国海の再生プロジェクト』について

東京湾などのように背後に都市を抱え、周りが陸地に囲まれた閉鎖性の高い海域（閉鎖性海域）では、流入する窒素やリンなどの汚濁負荷が非常に多く、また、外海との海水の交換が起こりにくいため、湾内に汚濁負荷が蓄積しやすく、赤潮（ 1 ）や青潮（ 2 ）が生じたり、生息生物が減少するなど海域の環境の悪化が問題となっているところがあります。

このような海域の環境の改善には、関係省庁や自治体、地域の皆さんが連携して、総合的に取り組む必要があります。

そのため、国土交通省及び海上保安庁では、都市再生プロジェクトの一環として、先行的に東京湾と大阪湾において、水質を改善し、市民に親しみやすい海を取り戻すため、関係機関等と連携して総合的な取り組みを実施しています。

さらに、平成17年度から「全国海の再生プロジェクト」として、他の海域においても水質の改善を進めていくこととしています。

< 主な取り組み >


陸域からの汚濁負荷の削減
合流式下水道の改善、下水道の高度処理の推進、
湿地や河口干潟の再生など

海域環境の改善
干潟・藻場等の再生・創出、汚泥の除去や底質の改善など

環境モニタリング
水質測定、人工衛星を利用した赤潮等の常時監視など

海域の環境教育
漂着ゴミ調査、海洋環境保全教室など

市民参加型のイベント
海浜清掃、シンポジウムなど



合流式下水道の改善による水環境の改善

貯留槽設置により未処理放流を防止

貯留槽

合流式下水道の改善

干潟再生

（ 1 ）赤潮 ... 海水中に含まれる窒素やリンなどの濃度が高くなることにより、それらを取り込んで成長するプランクトンが異常に増殖し、海面が赤っぽく変色する現象。魚介類の大量死を引き起こすことがあります。

（ 2 ）青潮 ... 酸素濃度が少ない海水の塊（貧酸素水塊）が海面に浮上し、海面の色が乳青色や乳白色に見える現象。貧酸素水塊は、海底に堆積した有機物をバクテリアなどが分解する際に水中の酸素を大量に消費することにより形成されます。